

【3日目 / 5月24日 (つづき)】

筆に使う水を手に入れようと、自販機を探しましたが付近に見当たりません。ちょっと行ったところに商店がありました。



久部良港からは日本最西端の「西崎 (いりざき)」がよく見えます。港の防波堤なんかも描きたかったのですが、岬を中心に描きたくなくて、手前の景色は「省略」しました。



しかも看板をよく見ると・・・



何と「日本最西端の店」(!!)と書いてあります。さっそく入ってみました。



描いた後、私は郵便局に向かいました。与那国島には「与那国郵便局 (本局)」と「久部良簡易郵便局」の2つの郵便局があります。そのうち久部良の郵便局が「日本最西端の郵便局」ということになります。外観は特に変わったことはなく、群馬の郵便局とあまり違いませんでした。「最西端の郵便局」とも書いてありません。



せっかく「日本最西端の店」に来て、水だけ買うのは失礼なような(?)気がして、昼食も入手してしまいました。与那国島には食堂も少なく、ゆっくり食事をしている時間もないので、どこか景色の良い場所でこれを食べようと思ったのですが・・・結局この直後に港で食べちゃいました。超おいしかったです。



郵便局で切手を買って絵の端に貼り、消印を押してもらいました。どこの郵便局でも 63 円 (はがきの郵

便料金)の切手を貼れば、郵便物以外でも「記念押印」をしてくれます。郵便局の消印はいわば「公的な押印」なので、「その日にこの地に来たぜ！」という「公式の証拠」になるのです。郵便局によっては「風景入り消印」や国際郵便用の「欧文印」なんてのもあって、いずれも記念押印に応じてくれます。手持ちの切手もあったのですが、その郵便局で切手を買って押印を頼むのが礼儀だと思っています。



しばらく車を走らせると、何路面を這っています。車を停めて近づくと、ヤドカリでした。それも見たこともないような超ジャンボサイズ！夜の石垣島の道路では「大きなカニの横断」を何度も見ましたが、「ヤドカリの横断」は初めて見ました。

これは八重山列島に多い「オカヤドカリ」の一種「オオナキオカヤドカリ」という種類です。少し珍しい種類で、なかなか出会えないようです。「宿」に使う貝殻もサザエのような大きな貝を好みます。結構素早く移動するのに驚きました。



またしばらく進むと、道路に幅の広い溝が刻んであります。レンタカー屋さんの人にも「通行に注意するように！」と言われたヤツです。これは「テキサスゲート」といって、馬が集落に入ってこないようにする為の設備です。馬の蹄では、この溝の上を歩いて越えることはできないのだそうです。



テキサスゲートを越えると、すぐに馬がいました。これが世に聞く「与那国馬」です。もともとは農耕用に飼育されていたのですが、現在はほぼ野生化していて、観光客の目を楽しませてくれます。馬としては小型で「ポニー」に分類されるのだそうです。



1頭や2頭ならかわいいのですが、こんな大群団に道を塞がれると閉口します。「フン！絶対にどいてやるもんか！」って感じで「順法闘争」をしていました。



(ノルウェー・アルタ郊外／2013年撮影)

動物の群団に道を塞がれたのは2回目です。1回目はノルウェーの国道でトナカイの大軍団に遭った時です。この時は地元の車がするように、時速1kmほどで、トナカイと「こすれ合う」ように通過しました。今回は馬のほうで道の隙間をつくってくれました。